



© Yuki Asada

手工芸品に祖国への思いを込めて

色とりどりのおしゃれな石けん、ビーズ付きの編み柄が美しいコースター、装飾をあしらったガラス細工。女性なら誰もが手に取ってみたいかわいらしい雑貨が、ヨルダンの首都アンマンのビルの一室にずらりと並ぶ。

これらの作り手は、シリアから避難してきた難民女性たち。奥の工房では、数人の女性がパジャマを縫っている最中だ。「以前、あるシリア難民女性のお宅ですてきな手工芸品を目にしました。シリアの女性は手作業が得意なので、それを生かして難民女性の生活のために何かできるのではないかと考えたんです」。そう話すシリア人女性のララ・シャヒンさんが女性の支援団体「ジャスミン」を立ち上げたのは、2014年。シリアの首都ダマスカスから

ヨルダンに避難してきた2年後のことだ。

現在、約40人いる作り手の平均月収は日本円で4万円ほど。ほとんどの女性は自宅で商品を作っているという。石けんは特に人気が高く、ヨルダン国内だけでなく海外にも卸売りしている。「小売店の店先では必ずしも“難民女性が作った商品”として売り出してはいません。日本の皆さんがジャスミンのことを知って商品を使ってくれたらうれしいです」。笑顔で話すララさんだが、事業拡大の予定については、「国に戻るという自分自身の見通しさえつかない状況ですから」と、顔を曇らせた。

作り手の思いに寄り添いながら、ぬくもりの手工芸品を愛用してみたいはかがだらうか。



[左] ジャスミンの入り口にはさまざまな商品が展示されている

[右] ジャスミンを経営するララさん

★シリア難民女性による手作りの石けんを2人にプレゼント! → 詳細は38ページへ

★ジャスミンの商品の購入をご希望の場合は、Larashahin100@gmail.com まで英語でご連絡ください。日本への発送もしています。

